

若者MIRAIトーク兼第67回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和5年12月23日(土) 午後1時30分～午後3時30分

場 所 小金井市民会館(萌え木ホール)

出席委員 9人

委員長 繁 田 進 委員

副委員長 金 尾 悠 香 委員

委 員 岡 田 一 美 委員 鴨 下 明 子 委員

橋 田 壤 志 委員 中 村 真 子 委員

中 村 彰 宏 委員 北 村 高 委員

水 落 俊 也 委員

欠席委員 3人

山野井 礼 奈 委員 南 貴 之 委員

須 藤 夏 生 委員

事務局職員

企画政策課長 富 田 絵 実

企画政策課係長 中 島 広 樹

企画政策課主任 野 村 啓 介

企画政策課主事 金 信 沙 樹

ファシリテーター

傍 聴 者 8人

(午後1時30分開会)

◎事務局 定刻になりました。若者MIRAIトーク兼市民参加推進会議を開始します。本日は、3人から欠席の連絡が入っています。定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立することとなっております。12人中9人御出席いただいておりますので、本会議は成立しているということで御報告申し上げます。それではよろしくお願ひします。

◎ファシリテーター 本日は、最終発表です。発表準備は20分、最終発表とフィードバック含めて35分、最後に振り返りワークとして、この3日間、旅してきたことが一体皆さんにどんな変化をもたらしたかを振り返るワークを行っていただきます。挨拶や記念撮影、終了後のいつもの交流時間なども大事にしていきたいと思っております。

最終発表は、1班から順番に行います。皆さん、学んだことを活かし、楽しみながら、準備していきましょう。よろしくをお願いします。

(グループワーク)

◎ファシリテーター お時間になりました。最終発表を始めたいと思います。1班、前へ出て準備をお願いします。

◎1班 1班の発表を始めます。テーマは、「ずっと住みたい小金井市」です。私は小金井市に三十年以上住んでいて、小金井市が好き過ぎて、この思いを皆さんにもぜひ持ってもらいたく、このテーマを考えました。「ずっと住みたい小金井市」を目指して、小金井市への帰属意識を高めたいと思っています。そのためには、つながることが大切であると思っています。

小金井市では多くのイベントが開催されているのですが、イベント自体を知らない方が多くて、もったいないと感じていました。イベントになるべく多くの人に足を運んでもらい、市民全員がつながって、安心して住み続けられるまちになってほしいと思っています。ですが、今のままでは少し足りない部分があり、そこを提案します。

本日、市報や冊子などを参考にお持ちしました。様々な情報がありますが、配布場所などがばらばらで、イベントに参加しようと思うと、情報を自分で集めに行かなくてはいけないということが大変です。

そこで、市民目線で楽しめるような、小金井市のイベント情報が集約されているアプリの導入を提案します。詳細を説明します。まず、アプリの画面としては、こちらの左のようなものを想定しております。「コガイベ」というアプリ名で、開くと地図が出て、例えばイベントの開催場所がマークされていて、とても見やすくなっています。そしてまた、年間のイベント等のスケジュールが一目で分かるようになっています。

利用方法としては、ポイント制となっています。こちらのポイントは市内のお店で使えるポイントということで、市で活躍して、市に還元するという循環を目標としております。

ポイントの貯め方は2通りございます。まずは参加したイベントのロコミを投稿し、「いいね」の数など、反響が多いものに対してポイントが付与されます。イベントの企画運営側に回ってもらった方にポイントを付与するという形もございます。例えば、小金井音楽フェスに参加した市民の方のコメント、それに「いいね」がついたら、その「いいね」の分だけポイントが付与されて、小金井市のお店で使えるポイントとして還元する、地域の帰属意識や地産地消、そういう循環にも役立つのではないかと思います。

◎ファシリテーター ありがとうございます。それでは、市民参加推進会議の岡田委員から、1班の発表についてコメントをお願いいたします。

◎岡田委員 皆さん、自分の言葉でしっかり発表されていて、若者目線のアイデアも素晴らしく、大変感心しました。私達ではなかなか出ないようなアイデアで、本当にあるのではないかと錯覚してしまうぐらい見やすくまとまっていて、素晴らしいと感じました。私は10年近く

小金井市に住んでいますが、一目でイベント情報が分かるような手段があるととてもいいと思いました。

また、いいねの数に応じてポイントが付与されるというのは予想していませんでしたが、コメントをたくさん投稿したいと感じる人も増えるいいアイデアだと思いました。実際にこういう企画があったら、アプリをダウンロードしたいと思いました。

◎ファシリテーター 1班の皆さん、ありがとうございます。次、2班の皆さん、お願いします。

◎2班 私たちは「みんなでつくる新しいふるさと」というテーマで発表させていただきます。まず、このコアメッセージの背景としては、前提として、小金井市はニューカマー、転入者が多いまちトップ3に上がるということをデータとして見つけました。東京23区以外の自治体の中で、人口に対する転入者率が武蔵野市、国分寺市に次いで第3位です。転入者の多いまちというふうに考えがちですが、実は、その裏に、転入者の青いグラフがございます。青いグラフで突出しているところが20～24歳のところ、つまり、学生の転入者が多いと考えられますが、その横、25～29歳のところで転出者数のオレンジのグラフが大きく伸びています。そこで、私たちは、転入者は多いけれども、大学を卒業後の25～29歳ぐらいの方々が転出しているのではないかと、小金井市に定着していないのではないかと考察しました。

仮説に入りますが、市外出身の転入者が多いということで、特に横のつながりが出来にくいのではないかとこの点に着目しました。

また、小金井市は、都心へ通勤する方も多いため、小金井市が寝に帰るだけのまちというように認識しているということも考えられます。

そういう状況ですと、まちへの愛着というふうなことが生まれにくい。そういう背景から、25歳～29歳の転出者が増えているのではないかと考えます。まちへの愛着が求められる中で、強化施策として、まちのコミュニティをつくっていきこうという施策がよく上がると思いますが、日本都市計画学会が2022年に出した論文で、まちへの定住とどういった要素が相関関係にあるかというところで、ショッピング施設が近所にある、交通の利便性がいいなど、様々な要因がありますが、相関関係の高いものの1つとして、近所付き合いが煩わしくないというところが1つ挙がっておりました。若者は過度な近所付き合いというところは好まないというところが1つポイントとしてあるかと思えます。

一方で、20代では、学校や会社、隣近所など、利害関係が発生するようなコミュニティではない、第3の緩やかなつながり、そういうような場が定住に対して求められているのではないかとこのように考えました。

そんな第3の緩やかなつながりの場づくりとして、私たちは日曜朝カフェというのを提案します。例えば、趣味ややりたいことなど、参加者がそれぞれ持っているわくわくするもの、そういうテーマで月に一度、みんなでそれを持ち寄って集まって、コーヒーを飲みながら、そのことについて語り合う、そんな場を設けたいと思っています。月に1回、第4日曜日に開催し

ようと思っています。

それで、場所としては、市内の様々なスポットに出発しようと思っ
ていまして、例えば、高架下でまだ使われていない場所や公園など、
そういうまちの未活用スペースなどを活用して、つながりの場づくり
をしていきたいと思っています。

開催場所については、その時々でいろんな場所をと考えています。
市民が使える公共施設としては、既存のものだと公民館がありますが、
私たち若者にとってはあまりわくわくする場所ではない。クリエイ
ティブな活動をしていきたい、気軽に集まりたいと思う場所ではな
くなってきている。そこで、市の皆さんに提案したいことが1つござ
います。

まちのリビングというようなキーフレーズを出させていただきました
が、今検討を進めている市役所の新庁舎の一面に、市民が気軽に集
まって自由に活動を進められるようなコワーキングスペースのよう
なスペースを作っていたきたい。期待を込めてこの提案させていた
きたいと思います。

◎ファシリテーター それでは、鴨下委員からコメントをお願いします。

◎鴨下委員 先ほどから強く感じていましたが、小金井市にこれだけ
強い思いを持った若者の皆様がいることにとても安心を感じてお
ります。朝カフェ、素晴らしいアイデアだと思います。それを先ほど
の1班のアプリで発信していったら、アイデア同士が繋がると思
いながら聞いていました。やれることは私たちもやりたいと思
います。

◎ファシリテーター それでは、3班の皆さん、準備をお願いします。

◎3班 3班が考えたのは、「子どもたちの居場所が見つかるまち小
金井」というテーマです。皆さんの発表を聞いていると、本当に小
金井を愛している方が多いと感じました。私も小金井を愛してい
る側の間人だと思っているのですが、ずっと住み続けたいと思
う中で、共働きの世帯で、今年、小学校へ入学予定の子どもが
いるのですが、学童に入れるかという不安がござ
います。そういう子どもを見てもらえるところ、子どもの居場所
や人が少ないという点を課題として考えています。

メンバーの大学生2人に聞いたところ、小金井市には雨の日に遊
べる屋内型の建物がなく、小・中学生のときは、武蔵野市の武蔵
野プレイスという場所に行っていたという話を聞きました。

また、日経新聞の11月の記事によると、3世帯に2つの世帯が
共働き世帯だということで、こういう共通の課題を持っている
方が少なくないのではないかという理由から、このテーマに
しました。

この現状に対して、僕たちは、小金井市にも放課後に気楽に
子どもたちが交流したり、自由に遊んだり、勉強出来る施設
を作るのがよいのではないかという意見になりました。共働き
世帯が多い中で、三鷹市や武蔵野市と比べて、交流する場所
というのが少ないという点について、課題ととらえました。
放課後の子どもたちの居場所が見つかれば、共働き世帯の
方々も安心して仕事や生活が出来るのではないかという
のが僕たちの考えです。

しかし、その新しい施設を作るとなるとコストがかかります。このコストをどう解消していくかという、具体的には、管理不全空き家の活用を提案します。管理不全空き家の税制改正の関係で、管理不全空き家の持ち主としても、活用を希望される方は少なくないと考えています。

また、非対面の部分でも、Zoomやメタバース空間を活用して、1人でも多くの子どもたちに居場所を提供したいと考えています。以上で3班の発表を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

◎3班 ありがとうございます。それでは、橋田委員からコメントをお願いします。

◎橋田委員 発表の仕方などを含め、とても面白くて、すばらしいと思いました。今、少子化対策が非常に大きな問題として語られると思いますが、小金井市の子どもたちが実際に遊ぶところが足りないなど、現実的な問題として捉えていて、それを管理不全空き家というもう一つの問題と結びつけていて、とてもオリジナリティーのあるアイデアで、素晴らしいと思いました。ありがとうございます。

◎ファシリテーター ありがとうございます。4班、準備をお願いします。

◎4班 私たちのテーマは「全ての世代が住みやすいまち」をテーマに考えました。この課題は小金井市だけではないですが、全国的にみても地域コミュニティはかなり衰退しており、地域内で交流する場所が少なくなっているという現状がございます。

このグラフは国土交通省が出したものですが、地域コミュニティの状況を把握するための調査で、この黄色とピンクの約7割が地域での交流、地域の人たちとそれほど親しくない、または全く親しくないと回答しています。そのため、私たちのグループでは、この交流を増やして地域の活性化につなげるために、小金井市の特徴でもある自然を使った交流の場が必要だと考えました。小金井には野川公園や小金井公園など、数々の自然が豊かな場所があります。そこで我々が考えついたのが、既に小金井にあるものを使おうということで、公園を舞台に、もっと多くの人、全ての世代が集まれるような交流のイベントを作りたいということを考えました。

題して「若者MIRAIトーク発、みんな集まれ水遊び」でございます。こちらはイベントではありますが、イベントに飽き足らず、実行委員、運営委員会のようなものを設立し、公園だけではなく、学校、大学生のパワー、そういった爆発力みたいなものをこういったイベントに組み込んで、活用していければいいなということを思っています。

また、こういったイベントを組み立てていくためにも、やはり先ほど3班、2班がおっしゃっていたように、自由に打ち合わせが出来るようなスペースは確実に必要だと思います。学生より多世代が集まれるような、そして自然のありものを使った、より地元を愛するようになるイベント、こういうものを組み立てられると考えます。それでは、4班の発表を終わります。

◎ファシリテーター ありがとうございます。中村真子委員からフィードバックをお願いいたします。

◎中村（真）委員 ありがとうございます。国土交通省の発表の資料など、根拠が分かりやすく、また、それをどういうふうに生かしていくか。今、自然の中にあるものを生かしてというところで、根拠と対策がすごくうまくつながっていて、すてきな発表だなと思いました。

小金井市の小中学校も今、地域の方と一緒に様々なイベントをやっています。市民の活動に地域の学生さんが加わって一緒にやっていたら、すてきな交流が生まれるのではないかと思うので、よかったら引き続き考えてみてください。ありがとうございました。

◎ファシリテーター ありがとうございます。続きまして、5班、お願いいたします。

◎5班 我々5班が考えたのは「都会と田舎のいいとこ取り」と「小金井公園でテックイベント」ということです。武蔵小金井駅は通勤で使われている方が多いと思うので、休みの日に、商店街や最終的には小金井公園でテックイベントをやりたいと考えました。仮説としては、武蔵小金井駅北口があまり発展していないという現状がありますので、武蔵小金井駅北口の発展と小金井公園の魅力を発信したいという想いで考えました。時期は常時開催したいと思っています。どこでやるかという、武蔵小金井駅から小金井公園までの区間です。ターゲットとしては、市民、地域の方々、部外から来る方などで、誰でも参加出来るようなイベントにしたいです。イベントの概要としては、参加型のテックイベントで、近く分かりやすく言えば、ポケモンGOのような感じを想定しています。ステップ3のポイントとしては、市民参加、若者参加、北口の発展と小金井公園の魅力を発信するということです。ステップ4のコアメッセージは、テックの见えない世界から、みんなが見ているアニメまで幅広いメッセージを伝えたいと思っています。

次に、小金井市が老若男女にとって居心地の良いまちであることをもっと皆さんに伝えたいです。都会的な印象と田舎的な印象、その両方の側面があることが小金井市の魅力だと思っています。武蔵小金井駅で下車してもらうことにより、駅前が都会的になる。便利も集まってくる。そして、小金井公園まで歩くことによって、都立公園の豊かな自然や、まちなかの商店街で感じる触れ合いなどを体感してもらう。先ほど説明した小金井公園でイベントをやるというのは、アプリを使った「小金井GO」というアプリを開発したいなと思っています。5班の発表を終わります。

◎ファシリテーター ありがとうございます。続きまして、中村彰宏委員から一言お願いいたします。

◎中村（彰）委員 3回にわたり、お疲れさまでした。今ある地域資源ということで、都立小金井公園と、それから、いわゆるテックイベントという、いわゆる現代的な課題と結びつけて、まちおこしの観点から大変面白い企画であったと思います。今後また、そのテックイベントの内容を掘り下げていっていただいて、ぜひこれを実現化していただくよう、行政と一緒に頑張って、いい企画を練り上げていただければと思います。

◎ファシリテーター ありがとうございます。6班、最終発表ですね。お願いします。

◎6班 6班の発表を始めます。私たちのキャッチコピーとしては、「ディスカバー小金井ピ

ープル」ということです。仮説にも記載しておりますが、自宅と学校、自宅と職場という、ある種の閉鎖的な空間にいる人を連れ出して、その連れ出すことというのが地域おこしにつながるのではないかと考えました。ポイントとしては、地域デビューと、縦の旅行です。これについてご説明します。まず、横の旅行についてです。横の旅行とは、一般的な旅行、日本国内の遠方への旅行や、海外への旅行が横の旅行に当たるのですが、縦の旅行というのは、身近な地域、自分の住んでいる周りや、そこを旅行しようということが縦の旅行で、これは小説家の方が使っていた表現なのですが、以上の趣旨・目的を踏まえ、具体的な施策についてお話しさせていただきます。先ほど、ターゲットとして挙げた家と職場を往復している方は、忙しくてイベントに参加できない、イベントについて知らないという方が多いであろうという仮説の下、今回のこの計画を立てました。時間帯を選んで地域活動が選べるよう、各自の都合のよい時間という点に重きを置いて今回計画しました。これらの具体的な解決策として、まちのイベント参加によってスタンプをためるイベントスタンプラリーを提案します。こちら、1班の発表で既にお話があったように、イベントについて知るきっかけとしてアプリを活用するということでしたが、情報を逃さないというのが非常に大切なことだと思っております、情報が必要な人に届くという体制をしっかりと作り上げた上で、両輪で進めていく必要がありますが、固定ルートを設けずに、地域のイベントに参加する回数に応じてポイントがたまっていく、たまったポイントに応じて特典が付与される、このような仕組みは、気軽な地域参加、つまり、先ほどお話があった、地域イベントに興味はあるけどスケジュールの都合で参加できないという方に直接情報を届けて誘い込むということがうまく出来るのではないかと考えます。

更には、先ほどのアプリに興味・関心のある項目や年代など、個人の属性を入力出来るようにして、AIからお勧めのイベントをピックアップしてもらうなど、そういう広げ方が出来るというふうに考えています。私たちは、「ディスカバー小金井ピープル」というアイデアを提案しましたが、小金井は本当にニューカマーで、子育て世代もいますし、また、学生も多く住んでいます。そして、60年、70年、ずっと小金井に住んでいるという方もいます。この世代の多様さというのはすごく小金井市の魅力でもあり、地域の活力の根源だというふうにも思っています。ですけど、地域活性化という視点で見たときに、なかなかその世代間の縦のつながりや交流が不足しているのでは、そこをもっとつないでいきたいという思いから、こういったスタンプラリーを提案しました。その際に、今、参加できていない人、家と学校の往復でなかなか地域に出られていない人、こういう人たちをどんどん地域に巻き込むことによって、1つ触媒として、いろんなこれまで会わなかった世代との対話や交流を起点に地域全体を盛り上げていけたらいいなという思いで提案いたしました。6班の発表は以上になります。

◎ファシリテーター ありがとうございます。それでは、金尾委員よりフィードバックをお願いいたします。

◎金尾副委員長 6班の皆さん、発表どうもありがとうございました。ディスカバー小金井ピープルということで、家と職場の往復が多い世代、若者世代、現役世代、それから現代的な住

み方の特性を非常によく分析されており、的確な御指摘であったというふうに思います。それをきっかけに、縦の旅行というフレーズから、アプリやスタンプラリーを活用されたDXと、あと、興味を引きましたのは、AIでお勧めイベントをピックアップというような、若者ならではの解決方法を御提示いただいて、非常に興味深く、そして、実現可能なんじゃないかというふうにも思いました。いろんな世代を取り残さず、1人も取り残さない地域というのが出来るのではないかなというふうに感慨深く拝聴いたしました。どうもありがとうございます。

◎ファシリテーター ありがとうございます。それでは、北村委員より全体のグループの総括的なコメント、フィードバックをお願いいたします。

◎北村委員 本日は本当にありがとうございました。皆さんのアイデアはとても新鮮で、私たちが知らない情報、意識していない情報もありまして、我々行政が気付いていないことがたくさんあるということを改めて教えていただきました。それから、班によってアイデアの視点が全然違うという点も、これも大変興味深く聞かせていただきました。時代と、それから、市政の課題といったものを的確に捉えているというのも多くあったなと思っております。学ばせていただくこと大変多くて、とても有意義な時間をいただきました。

最後に、何より皆さんが真剣に小金井市のことを考えていただいていること、そういった発表だったことを大変嬉しく思っています。本日はありがとうございました。

◎ファシリテーター ありがとうございます。また、続きまして、水落委員より一言いただきます。

◎水落委員 3日間どうもありがとうございました。私は初回から傍聴させていただきました。皆さん本当に熱心に御議論いただいて、グループによっては、立って討議している方、座って、いろんなメモ取りながら討議されている方など、様々なやり方を学ばせていただきました。

今日の報告も、調査結果や統計データなども活用しながら熱心にまとめていただいて、非常にいいアイデアをいただいたと思っております。若者の意見を市政にどう取り入れるのか、若者の市民参加というのは長年の課題になっておりまして、今回やっとうこういう形でこういう場を設けさせていただいて感謝しております。今回のこれからの若者の意見の取り入れ方や市民参加について、参考にさせていただきたいと思っております。今後ともよろしく願います。

小金井市は様々な市民参加の場を設けておりまして、今回参加された皆さんも、これで終わりではなく、いろんな委員会や審議会に参加していただいて、あと、今回の傍聴の方でも3回とも出席していただいた方もいて、その傍聴者の方も、傍聴だけでなく、直接参加していただきたりするとうれしいなと思っておりますので、今後ともよろしく願います。

◎ファシリテーター 私も市民としてすごくいいアイデアがいっぱいあるなというふうに思いました。すてきなフィードバックをありがとうございました。また、皆さん、発表本当にお疲れさまでした。

この後ですが、5分間の休憩を挟みまして、この若者MIRAIトーク、3日間の旅を通して、自分自身にどんな変化が起こったか、市政に対する意識にどんな変化が起こったというの

をこのグループワークを通して探求していただきたいと思っております。

机上に配布してありますフォーマットに、参加前、参加後、自分自身の気持ちや行動、市政に対する意識というものをポストイットでたくさん出していただき、最後はグループ化して、まとめ、皆さんに幾つかピックアップして御発表いただくという、そういうような流れになっております。

最終発表はここが大事でして、一旦休憩を挟んで、もう一度自分自身の変化、そのあたりをゆっくり考える時間のほうをつくっていきたいと思います。では、一旦休憩とさせていただきます。

(休 憩 ・ ワ ー ク)

◎ファシリテーター 皆さん、発表の時間になりました。発表は1班からからスタートします。ほかの班にはどんな意見があったか、聞いてみましょう。

◎1班 若者MIRAIトークに参加前と参加後の変化ということですが、参加する前は楽しそう、面白そう、わくわくするというような意見や、実際の日常生活で使えるかもという意見がありました。また、私たちは学生なので、グループディスカッションの練習になりそう、今後のそういった学校生活にも利用出来るだろうというプラス意見がありました。マイナス意見としては、小金井市のことを少し遠くに感じていたというところがマイナス意見として挙げられます。

参加した後にに関しては、市の魅力というところで、面白いまちだったり、小金井の魅力を再発見したい、自慢したいという思いだったり、市の魅力をまたこうやって知るという機会を得ることができました。また、普段関わることない人たちと交流できて新鮮だったということと、自分たちで考えるのが楽しいという意見がありました。

市政に対する意識として、参加する前は、言って何か変わるのかなという意見や、特に何かを期待していないなど、若干懐疑的な意見がありました。あとは遠い存在のような感じで、「小金井は好きだけど自分とは関係ないからまちのことは分からない。」程度の解像度だったのが、参加後には、市との距離の縮まり、親しみを感じて、市は私達若者の声を聞いてくれようとしているということを感じました。それで、自分たちは当事者意識を持って、変わってほしい、変えたい、日常生活をよりよく変化させたい、みんなの案が実現してほしいというふうになるようになりました。

◎ファシリテーター ありがとうございます。2班の皆さん、お願いします。

◎2班 私たちの班で多かった意見として、「よく分からないけど、参加してみよう」という思いで参加した方が多くいましたが、参加したところ、意外とみんな小金井市への思いを何かしら持っていて、そういう人が結構多いまちであるということの気づきがありました。

あと、ほかの自治体と比べて小金井市は取組の状況が遅いのではないかという話がありましたが、やりたい人は意外といるということが今回分かりましたし、新しいことや活動を出来る

場所も幾つかあり、ポテンシャルがあって、今後僕らが関わっていく意義があるのではないかという話が出ました。

市政についてですが、これまではどういう人たちがいるのかということがあまり見えていなかったのですが、今回、実際こういう場に参加したことで、市民にどういう人がいるのか、市長や市役所職員がどういう人たちなのか、顔が見える関係性ができたことで、何かそこへの親近感、つながりの意識というのが少し生まれたかもしれないという話が出ておりました。

◎ファシリテーター ありがとうございます。3班の皆さん、お願いします。

◎3班 自分自身の参加前の意見としては、小金井市ネイティブ民といっても、地域との交流があまりなかったという意見が多くありました。あとは、小金井について、そもそもの理解があまりなかったという意見や、小金井市について正直あまり考えたことがなかった、小金井市で何かをするということを考えていなかったという意見がありました。

参加後の意見としては、小金井市を愛する人が自分以外にもいることが実感できたという意見や、交流の機会が意外と多いことを実感したという意見がありました。

あとは、市政に対してあまり理解がなかったが、3回通して参加したことによって、視野が広がって、小金井市のことをより考えようという意識になったという意見や、小金井市の魅力を再確認できたという話がありました。みんな小金井市のことを好きということ、今回の3回を通して知ることが出来ました。

市については、市が主催するイベントは高齢の方が多く、若い人が少ないイメージだったという話や、保守的なイメージがあったというのが上がりました。

理解不足という面では、市長や副市長の目指すところを明確に理解していなかったという意見や、もっと市をよくしたいと思ってはいたが、それに対しての行動が出来ていなかった、そもそも市にあまり関心がなかったという意見がありました。

参加後の意見としましては、市長や副市長の話を聞いて、市をどのように動かしていきたいかというのがより明確化したという意見がありました。

また、さっきも申し上げましたが、皆、小金井市をよくしたいと思っているというのが、自分の意見です。やっぱり感動したというのが最後の僕たちの話です。

◎ファシリテーター ありがとうございます。4班、お願いします。

◎4班 4班は、自分自身としては、市政へ参加するというのは不安、難しい問題、堅いというイメージだったり、市政って何だというそもそもの疑問であったり、どんな人が参加するのだろうかという疑問がありました。実際に若者MIRAIトークに参加して、市長の最初の意見を聞いてから、市長のX（旧Twitter）をフォローしたり、自分から行動することの大切さというものを学びました。また、グループワークに参加して、堅いイメージというものが、気軽に参加出来るイメージに変わりました。

また、小金井市以外の市を知らないということもありましたが、参加することによって、お祭りだけじゃなくて、様々な人が関わっているということを実感しました。

若者MIRAIトークに参加する前は、グループワークはやらされるものというイメージがありましたが、参加してみて、小金井市の人がとても熱くて、仕事が熱心で楽しそうというふうにイメージが変わりました。そして、小金井市の皆さんはまちへの愛というものを持っているというのを感じました。

◎ファシリテーター ありがとうございます。1人じゃない、ポジティブ、そういう意見がありますね。ワークを通して僕が皆さんにお伝えしたいことは、やっぱり自分のまちは自分でつくるといこと、その感覚をワークの中で見つけてほしいというメッセージです。皆さん本当にお疲れさまでした。では、このまま、小金井市長、副市長、それから、市民参加推進会議の委員長からメッセージをいただきたいと思います。

◎繁田委員長 これだけたくさんの若者に集まっていたいて、共稼ぎ率、転出率、管理不全空き家など、3日間という短時間でよくこれだけ調べられたということ、感動いたしました。これで小金井は大丈夫だと感じました。

それから、アプリの開発、ぜひ早速やってほしいと思います。日曜朝カフェ、小金井GOのアプリ、どんどんやってみましょう。夢がありますよね。私、本当に皆さんの話を聞いて感動いたしました。あと、1人、大変字がきれいな方がいらっしゃって、それも感動しました。市民参加推進会議といたしましても、若者の市政参加が長年の課題となっております。今回、このMIRAIトークの開催を通じて少し光が見えてきたと感じています。今後も市民参加推進会議で、新たに課題がたくさん見つかりましたので、今後はそれを中心に議論を進めてまいりたいと思っています。

◎ファシリテーター 副市長、お願いいたします。

◎神山副市長 3日間お疲れさまでした。どのグループの発表もとても楽しくて、わくわくしながら発表を聞かせていただきました。何が一番というのは、こんなにみんな小金井市を愛していて、小金井市に対して愛着を持っているということです。小金井市が大好きな若者がこんなにいるということを確認できて、大変勇気をもらいました。

発表の中で、情報が届かないという意見が多く、それと同じことを実は私たちも感じております。若者がどう思っているのかという情報が、私たちになかなか届いてこないという実感があります。どこかでミスマッチが起きているということです。関心がないのではなくて、こんなに熱く小金井を愛している若者がたくさんいるということ、そういう人たちがこの地域にいるということを実感できたのがすごくよかったと感じております。

今後は、皆さんと私たちがどうつながっていくことが出来るかということが課題だということも改めて感じたので、皆さんいろんな声を上げてください。

冒頭でもありましたが、パブリックコメントや各種審議会、みんなが意見を言える場というのはたくさんあるので、ぜひぜひ皆さんの意見をダイレクトに届けていただきたいなと思っていますし、私たちもこれからも皆さんの世代の声を聞くように頑張っていきたいと思っています。これから小金井市、いいまちにしていきたいと思います。3日間、お疲れさまでした。

◎白井市長 市長の白井でございます。3日間、お疲れさまでした。本当にありがとうございました。冒頭、第1回のときにインプットトークとしていろいろお話をさせていただきましたが、私たちは若い皆さんに期待しているところでございます。

今いろいろお話がありましたが、やはりこれまでは私たちは若い人たちの声をしっかり吸い上げる仕組みをつくってこなかったという認識を持っております。いや、全市民対象として市民参加はやっているんですよね。ただ、それが若い人たちに届けられていなかったんじゃないか、こういう反省がございます。

今回は、若者討議会、若者MIRAIトークとして、こうやって皆さんに集まっていたいで、若者の皆さんでいろいろ考えていただくきっかけをつくりました。皆さんの声をどう反映出来るかということは考えていきたいと思っています。あとは、先ほど市民参加推進会議の委員長からも話があったように、これから小金井としてどうやって若い人たちの声を吸い上げる仕組みをつくるかというところの議論を具体的にやっていきたいと思います。

改めて、3日間、こうやって小金井のことを考える機会があって、皆さんのなかでもまちに対する想いが出てきた、湧いて出てきたのかもしれない。ぜひ、今後もこのまちに、在勤、在学の方もいらっしゃるかもしれませんが、自分が関わっているこのまちのことについて少しでも想いを馳せていただきたいです。先ほど委員長がやったらいいですよと言いましたけど、やっていいんです。私たちとして市民参加の仕組みをつくっていくということもそうです。今回のこの機会をきっかけにして、地域の友達というか、顔見知りというか、そういう仲間として、また今後も何かつながっていくことによって、困ったときに助け合えるような仲間になるかもしれないので、ぜひつながっていただきたいと思いました。

インプットトークでお話をしたように、私自身、今から13年前までは政治そのものに全く無関心で、市政にも無関心な一市民でした。自分なりにいろいろ思うところがあって、自分事としてまちを捉えた結果、市議会議員になり、今、市長をやっています。これは特異な例ですが、ただやっぱり今まで以上に、今までとはまた違う、今回参加したことによって小金井市とのつながりというのを皆さん感じられたと思います。自分で出来ることを考えていただいて、アクションをしてみるということを期待しておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

これからも若い人たちを含めて、みんなでまちをつくるという小金井市にしていきたいと思っています。出していただいた意見は、ごもっともなことが多いと思います。ただ、全てをすぐに考えることはできません。これは大人の意見も全部そうです。いろいろ声をいただきますが、なかなか全部をすぐに実現するという事は出来ません。優先順位や、別の手法でやりましょうなどとこともあります。伝えたことがなかなかできないねということは当たり前のこととして、どうしても実現したいのであれば、一緒に考えましょう。そういうまちにしていきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしく申し上げます。

◎事務局 以上で若者MIRAIトーク兼市民参加推進会議を終了します。3日間、本当にあ

ありがとうございました。

(午後 3 時 3 0 分閉会)

— 了 —